

『舞翔技』

リポーター

長井 世幸 さん

(餅田)



トランポリン競技が今年のオリンピックから正式競技として認められ、来年の秋田市を中心として開催されるワールドゲームズの競技種目の一つとして行われます。あまり知られていない競技（国体種目になっていないのが残念）のため、先日、隣町のグリアス田代で東北トランポリン競技選手権大会がありましたので、取材に行きました。

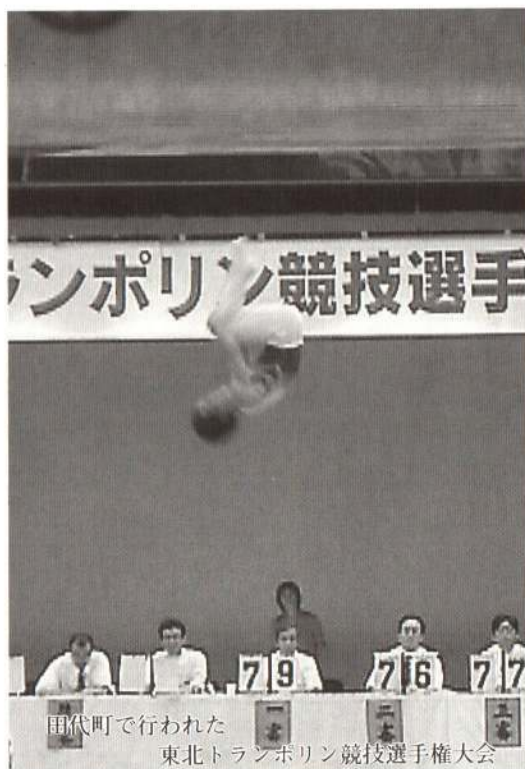
トランポリン競技はトランポリン上で連続した10種類の技を行い、その技の奇麗さと難度（難しさ）を争うものです。規定競技と自由競技があり、自由競技は自分が行う種目を1時間前に申告して、競技がそれに沿った内容かを7人の審判員によって判定されます。5人は演技点、残り2人は難度点を採点するそうです。

トランポリンの網の部分【ベット】と言い、そこから少しでも外に出ると（髪の毛でも）それで競技打ち切り。また、両足でベット上に降りなければそれで競技中止。バランスを崩して片足で着地してしまったり10種目中でも中止という厳しい競技なのだそうです。

競技終了後の着地も3秒の停止、高得点をとるためには1回転やひねりなどを入れて、演技を自分で組み立てていきます。しかし、難度を上げると演技が乱れやすくなるため、まさに、足し算と引き算の競技といえます。クラスは易しいほうからC、B、A、Sに分かれているとのこと。

北鹿周辺のトランポリン愛好者人口はおおよそ100人くらい。わが大館市には、釈迦内地区に大館市トランポリンクラブがあり、そのレベルは東北でもひとときわ高いそうです。OBに日体大の虻川由作君（Sクラス）、久保実由さん（Sクラス）がおり、虻川君は昨年日本ランキング、賞金ランキングでともに1位だったと話していました。

Sクラスの彼らの演技を観ていると「よくクルクルと回ってベットの真ん中に降りてくるモノだ」と、競技が終わると自然に拍手とともにため息さえ出ます。虻川君は残念ながらシドニーオリンピックの選考から落ちてしまったそうですが、大館からオリンピック選手が出るのもそう遠くないでしょう。これで今年のオリンピック観戦の楽しみが一つ増えたなあーと思いつつ、取材を終えました。



田代町で行われた
東北トランポリン競技選手権大会



市出身 虻川選手の力強い演技